

00	09	03	002	永年保存	起案	平成 年 月 日	決裁	平成 年 月 日
議長	副議長	事務局長	副主幹	主査	担当	担当	文書取扱主任	

第3回 経済建設常任委員会 会議録

開催年月日		平成19年6月19日（火曜日）		開会：10時00分		閉会：11時00分	
開催場所		第三委員会室					
出席委員		山木、清水、中田、山腰				事務局	飯沼事務局長
		委員外委員～窪之内					中川副主幹
欠席委員		田村、水口					高橋主任主事
説明員		別紙のとおり					
議件		別紙のとおり					
議 事 の 概 要	1. 所管からの報告事項について						
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。						
	(1) ホクレン滝川スワインステーション種豚センター(仮称)の建設計画について						
	① 概要報告						
	② 補正予算の上程について						
	③ 市道路線の認定及び廃止について						
	ホクレン滝川スワインステーション種豚センター(仮称)視察をすることとし、時期						
	については、正副委員長と事務局に一任することとした。						
	2. その他について						
	なし						
	3. 次回委員会の日程について						
	正副委員長に一任することに決定した。						

平成19年6月18日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

経済建設常任委員会への説明員の出席について

平成19年6月15日付け滝議第36号で通知のありました経済建設常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願い致します。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願い致します。

記

市長

田 村 弘

滝川市長の委任を受けた者

経済部長

中 嶋 康 雄

経済部参事

江 上 充 明

経済部商工労働課長

吉 井 裕 視

経済部商工労働課主幹・農政課主幹

野 澤 秀 徳

経済部商工労働課地域振興室長

五十嵐 千夏雄

経済部農政課長

多 田 幸 秀

経済部農政課主査

~~田 中 徹~~

建設部長

岡 部 豊

建設部土木課長

大 平 正 一

(総務部総務課総務グループ)

第3回 経済建設常任委員会

H19. 6. 19(火) 10:00～
第 三 委 員 会 室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1. 所管からの報告事項について

《経 済 部》

(1) ホクレン滝川スワインステーション種豚センター(仮称)の建設計画について(資料)

- ① 概要報告
- ② 補正予算の上程について
- ③ 市道路線の認定及び廃止について（商工労働課）

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第3回 経済建設常任委員会

H19. 6. 19(火)10:00～

第 三 委 員 会 室

開 会 10:00

委員動静報告

委 員 長

欠席～田村委員、水口委員。委員外～窪之内議員。空知新聞社の傍聴を許可。

1 所管からの報告事項について

委 員 長

所管から(1)について報告を願う。

(1)ホクレン滝川スワインステーション種豚センター(仮称)の建設計画について

市 長

(①について別紙資料に基づき説明する。)

委 員 長

ここで市長は退席する。

多田課長

(②について別紙資料に基づき説明する。)

岡部部長

(③について別紙資料に基づき説明する。)

委 員 長

(1)説明が終わった。質疑はあるか。

山 腰

① 市長が概要説明に出てくるのは悪くはないが、自分の記憶ではない。いかにも市長が誘致に最大努力したかのように受けるが。

② 事業の内容について、発注者はホクレンなので当然中身について詳しくはないと思うが、滝川市は市道にも協力をしていることから、そこに8億5,000万円の事業費を使って建築物を建てるということはどうなのかわかる範囲で伺いたい。

③ 当然所管は、これだけの事業なので発注者がホクレンといいながら、願えれば、地元の企業の方にも参加できるシステム、その要請・要望をJA組合長を含めてと考えていると思うので、これをどのように進行するのかお聞きしたい。

五十嵐室長

② 施設の内容であるが、資料(4)に内容の記載があるが、繁殖舎、分娩舎、子豚舎が各1棟、育成舎、肥育舎が各2棟、そのほかに堆肥発酵舎が堆肥製品庫、污水处理施設、管理棟、車両庫、隔離豚舎、駐車場を整備する予定である。環境対策として、活性汚泥処理方式の複合ラグーンシステムを建築、また堆肥発酵舎のほうではロータリー自動攪拌方式ということで、臭いが一番出るので脱臭装置もつけると聞いている。

山 腰

これを建設するに当たって、例えば建築、設備、電気についても、地元の企業も参入させて入札するとなると8億、9億の中でどれくらいの建設費がかかるのか。

五十嵐室長

投資額約9億と記載しているが、細分すると用地取得造成費に約6,000万円、建設費に8億5,000万円の合計9億1,000万円である。

中嶋部長

① 市長より概要説明していただいた。これについては、かねてから市長と相談をしながら該当地域を回り、行政としても誘致をしたい一念で接触し動いた経過があったことから、ぜひ市長から報告をしてほしいとお願いをしてきたわけである。工事に係る地元への経済効果は、今後、建物の規模、構造等については、まだ不明な点がある。そういったものも事前に私どものレベルでホクレンに伺ってから、JAの組合長と市長がホクレンの役員の方に伺うようなスケジュールを組んでいるので、その折にそういったことにも触れられると考えている。

山 腰 それは通常のあいさつがわりで、そんなことはいつもやっていることだと思う。少なくとも 50%は国の補助金で、50%はホクレンなので、発注はホクレンだから当然ホクレンにお願いしなければならないのは事実だが、J Aたきかわ組合長も腰を上げれば地元にひとつ協力をしてくれるという姿勢ができる。当然市長もそうだし、議会もそうだし、関係する協会の代表もそうだと思う。まず、ホクレンに相談するのが筋で、次は 50%出している国ではないか。このたびは滝川に誘致ありがとうございました、についてはホクレンさん、何とか滝川の企業が参入できますようにお願いしますと言って帰ってくるなら市長が行かなくてもいい。相手のいることだから、ここまで企業誘致したのであれば、もう一步踏み込んでだめかもしれないが、そういう姿勢を見せなければここまで冷え切っている滝川の経済界の中で、所管も市長も一生懸命やっているという姿勢が見えないのではないかな。

中嶋部長 山腰委員の言われるとおりだが、私どものレベルで可能かどうかといったことも探らなければならないと考えている。ホクレン自体もいろいろな種豚施設を建設しているので、所管でどういった建設業者を使っているのかといったこともまだ確かなものがないので、その辺を探ってからお礼になるのか、それが主になるのかわからないが、礼をつくして要請していきたいという考えでいる。

山 腰 22 日の代表質問でもこのことを含めて公共事業のことを取り上げるが、滝川市は姿勢を問われていると思う。ないものは取れないのでだれも言わないが、それを何とか努力して取ろうとする姿勢が見えない。だからこのたびのこれだって結果的にはだめかもしれない。あいさつがわりをお願いしてきますと言うのでは努力の結果が見えないということを言っている。何としてでも取るためにお願いしますという姿勢を見せなさいということ。せっかく市長が滝川市に企業誘致をつくり上げたのだから、企業誘致なんて言葉は何十年前から聞いているが成功例はゼロとは言わないまでも、今回は成功例だと思う。ここまで漕ぎ着けたのだからそういう姿勢を見せてはどうか。

中嶋部長 言われるとおりと思う。何とか地元の経済に結びつくような形で、順序というものもあるが、首長あるいは J Aたきかわ組合長それから建設関係、商工会議所などいろいろな話をさせてもらったが、例えば、今後使われる飼料を J Aたきかわを通して使っていただけるルートも可能かとか、こういったことも話の中で出ているが、結論がまだ見えていない部分もあり、事前調査する中で適正な対応をしていきたいと思っている。

山 腰 平成 20 年にオープンした結果、ホクレンさんの正職員も来ると思うが、一般職員、パート職員、嘱託職員の市内の雇用はどうなるのか。

五十嵐室長 資料に要員 11 名と書いてあるが、内訳として今の段階では正職員 3 名がホクレンから来て、1 名が現スワインステーションから異動してくるので新規雇用は六、七名と聞いている。

山 腰 新規職員とは嘱託職員か。

五十嵐室長 嘱託職員である。

山 腰 了解した。

委員 他に質疑はあるか。

副委員長 ① まず地権者の問題だが、地権者は何人か。農振除外面積は 15 町なのか、農振除外手続き、スケジュール及び縦覧は既に始まったのか。

② 地域住民への説明会ということで 13 の 1 町内には 2 月に終えているが特に排水の方向がどっちに流れるのか、熊穴川や、ラウネ川方向なのか、それと

も東滝川の方角なのかということも含めて心配しているので、ホクレンまたは市として近隣住民への説明会をどのように考えているのか。

③ かなりの水を使うがどれくらい地下水を使うのか。排水はどの川に流れるのか。

④ 廃棄物は堆肥化するというが、どれくらいの量が堆肥化されて、産業廃棄物としてはどれくらいの量が予想されるのか。堆肥については、今ですら下水の関係で汚泥処理した後の堆肥だとか、新生園のあいがも堆肥だとか、いろいろな堆肥が出回っているが、大量になるのではないかと思う。販売方法についても伺いたい。

⑤ SPF豚の人気が出たが、豚そのものの需要がふえているということなのか。出荷対象が道内か道外かわかっていれば教えていただきたい。

⑥ 滝川市の関与ということで、市に今後発生する費用があれば、伺いたい。

⑦ 固定資産税の収入はどれくらいあるのか。市道ができるが舗装にするのか。いわゆる開発行為ということだと思うが、廃止がちょっと減って、認定が少しふえるということで市の除雪距離、除雪費用はどうなるのか。

⑧ 委員会に説明するのが遅いと思う。ホクレンの企業秘密ということは当然あると思うが、あそこは優良農地だと思う。完全に優良かどうかは農民でないのでわからないが、麦だとか畑作としてはつくっているところで、そこが15町農地に除外されるということを前提に進んでいる計画なので、もっと委員会に対して進捗状況の報告があつてしかるべきだったと思う。19丁目と10丁目とで19丁目が頓挫して10丁目に来たということで同時並行で計画しているのかわからないが、既に昨年の12月ころにうわさを聞いていたので、議案の段階で初めて委員会提出というのはちょっと疑問に思うがどうか。

多田課長

① 農振の関係から話をする。市長が概要報告の中で申し上げたとおり、4ヘクタールを超える場合については、大臣の許可という法的な手続きが必要である。事前に大臣の許可に向けて事務を進めてきたところだが、大臣との事前協議が6月15日に完了したということで、除外に向けた法的な手続きをとっていくところである。除外に向けてはJA、農業委員会、土地改良区からの意見を伺った後、縦覧の開始ということになっており、本日、経済建設常任委員会にこの概要等の説明をさせていただいたので、縦覧については明日以降と考えている。

② 排水の方角については、ラウネ川のほうに排水予定をしている。

③ 生産される堆肥については、ふんと尿に分けてそれぞれ先ほど申しあげた施設で処理をする予定。そのふんについては、自動堆肥発酵装置等を経由して生産される堆肥が年間1,517トンで現在7丁目にあるホクレンの施設と同様に近隣の飼育農家に提供されると聞いている。価格的には、無償に近い金額になるのではないかと話されていたがはっきりしていない。地元農業の振興にもつながるのではと考えている。

中嶋部長

① それぞれ質問がたくさんあるので担当のほうから答えるが、地権者については3人いる。

岡部部長

⑥ 今後発生する滝川市の費用であるが、市道の整備費用が若干出るのではないかと考えている。ただ、我々が改良から何から何まですべてやるということとは考えていない。南に向かって坂になっているが、上がり口の拡幅や簡易舗装程度を考えている。除雪の関係では、4年程前から人が住んでいなかったので除雪をやめていたがまた再開をしなければならない。その費用については、包

	括的にやっているのを目に見えてここに100万円多くかかるということはないと考えている。
五十嵐室長	③ 地下水の使用量について、今聞いているのが日量45トンである。生産されるSPF豚の出荷対象は、前段市長から説明があったとおり種豚と肉豚がある。種豚については全道の生産農家に販売をするが、肉豚の販売先については承知していない。
	⑦ 固定資産税額については、今の段階では投資額しかわからない状況であることから概算でしか話せないが、建物の建築費8億5,000万円を基にした概算で約500万円ということである。土地の固定資産税については、現在少々宅地の部分があるが、ほとんどが農地でそれを農転して評価替えをしても、地域的に地価が安いので10万円程度の増収という程度である。
多田課長	⑧ 経済建設常任委員会への提案の時期に関してだが、この時期になったということ、あるいは予算を追加提案したことについては、農振法等関連法令の除外に関しての大臣との事前協議は4ヘクタール以上というが、本当は全体で15ヘクタールと面積が大きいことから、空知支庁、道あるいは農水省と事前協議を行ってきたところである。その関係で詳細等について詰めてきたが、6月15日付けで大臣から許可を得て、事前協議が終了済みとの書類を受け取り、初めて土地についてある程度めどがたったと思う。施設としては、交付金のめどはある程度はたてたところであるが、土地のめどがたっていないことから、経済建設常任委員会への提案時期が遅れてしまった。
江上参事	③ 汚水の関係だが、今回污水处理施設が活性汚泥処理方式ラグーンシステムというものを使い、45トンを一日に放流するが、水質汚濁防止法に基づき50トン以上の場合には届出が要るので水質基準としては、水質汚濁防止法の国の排水基準があり、それよりも今回は、第3次処理ということで大幅に目標設定値を下げた中で下流域の水質悪化につながらないための装置をつけている。
五十嵐室長	② 住民説明会について、先ほど市長からも報告があったとおり、3月12日、13の1町内会会員8戸を対象に行っている。この周辺住民が少ないということで、この町内会を対象に行った。排水については、畜産試験場がラウネ川のほうに排水するというので、それについては空知土地改良区とも協議済みである。
副委員長	ラウネ川のほうに排水をするということについて、汚水の処理が第3次処理というが設備の密閉性については雨水が入らないのか、ラウネ川自体は流れが余りないところで、時期によっては門を閉めたり流量を減らしたりすると思うが、日本は総量規制でなく、濃度規制なので基準をクリアしているからよいということではない。たくさん排水量があれば、同じだけの物質が入っていれば濃度としてはよい。川自体が富栄養化したりしてそこから下流の農業用水になっている。かなり栄養度の高い水になると思うが問題はないか。そういう点で住民説明会も必要であるし、ホクレン、土地改良区などの技術関係の面では用水としてどうなのかということを詰めていく必要があると思うがどうか。
江上参事	ラウネ川には今まで2カ所ほど補給線的な役割で空知土地改良区の機場施設があったが、今ラウネ川の改修工事と国営事業により支線等が改良されたことにより来年以降も水は使わないということで改良区から意見をもらっている。
副委員長	ラウネ川の上流の水は使わないというと、どこからの水を使うのか。全く使わないことにはならないと思うが今後は使わないのか。
江上参事	国営のかんがい排水事業ということで、一昨年度深川の広里から空知幹線とい

う大きな幹線が完成した。それに伴って道営であったことから用水路を整備した。用水路の水利権は1カ所から全区域をカバーできるだけの水量の許可をもっている、今まで普通河川から補給的に水が足りない分を使っているところについては、使わないようにかさ上げして水路の位置も高くしているところもある。今後においても、かんがい溝から地先までその水を使うということでせきとめたり、以前から使用していたところも深川の石狩川からの水を使って供給するというように変わってきている。

- 副委員長 確認するが、深川から流れてくる川と合流する地点より土地の高いところは、ラウネ川の水を使うのか。ほかの水を使うのか。
- 江上参事 今建設地付近については、その低いところは江部乙土地改良区の溜池の水を使ったり、今は転作しているがさらだめの水を使っている。ほとんど畑中心で果樹地についても用水または川からの取り入れはしないことで、土地改良区の承諾を得ている。
- 副委員長 専門家ではないので詳しいことは知らないが、山は伏流水と湧き水があるが、水源は川の水だったりするわけで、そこから溜池が成り立っていたりするので、溜池とラウネ川が別だとは考えないほうがよいと思う。そういう点で、特に頭首工からの上流部については心配がないのかどうか調べて地域住民に13の1町内以外の周辺下流についての説明をお願いしたい。同時に臭気の問題については、臭気対策をするといってもどこも臭いと思う。リサイクリンなどは、活性炭を使用し臭気対策をしているわけだが、それでも非常に臭いが強い。臭気対策をするのと臭いがなくなるというのは別の問題である。臭気の問題についても、市民に事前に説明をするということが必要と思うが考えを伺いたい。
- 中嶋部長 3月に13の1町内を対象に行った住民説明会については、臭気、飲料水、排水の問題については説明している。近々環境公害に関する覚書になるのか、協定になるのかそれを取り交わす予定であるので、住民説明会については今後は予定していない。
- 江上参事 農業用水については、今の勾配からも地形からもラウネ川と接続する部分には用水施設もないので影響はないと思う。
- 副委員長 了解した。
- 委員長 他に質疑はあるか。(なし)
- なければ私から1件申しあげる。先ほど山腰委員から意見があったが、久々の公共施設の建設に当たり、約9億円の予算についてJAたきかわ組合長ほかの方に地域に何かあったときには地域に貢献してもらいたいと日頃から話している。また内部にも伝えてあると言われていたが、やはり心配するのはそういう事業が起きて、民間と違うホクレンだから昔から系列で行っていたもので、あまり目立ってはいなかった。景気のいい時期はよかったが、現代ではホクレンも地域の消費者あつてのホクレンであるので、私も今度の事業に協力してもらいたいやってもらいたいと言うが、委員会の皆さんもJA、ホクレンと会う機会があったら、こういう話があったことを話してもらいたい。山腰委員の意見に同感する。強いて言えばJA、ホクレン、地域とのかかわりがさらに密接になるのではないか。一番大事なのは予算の出し入れではなく、そういうコミュニケーションを図りながら、きちんとかたえていけるよう努力してほしいということである。他に質疑はあるか。
- 窪之内委員外議員 市道廃止路線図があるが、今書かれている施設の近くまで行く道路を使用することになると思うのだが、施設として設置されるのはこのT字でぶつかったと

ころの西側に施設が建つと思ので、手前の10丁目から入る道路については全く使用しないと考えてよいか。道路施設として使用するのであれば1207番地についても、仮に1205番地から入っていくことになると思うが、橋がそれぞれ架かっており、先ほど市道の整備が見込まれるという話があったが、手前の橋については建設工事の車両等が出入りして大丈夫な状態になっているのか若干心配がある。また、今回整備についての補正が出されていないが、簡単な整備については補正予算を出さなくても現予算の中でやれるということなのか伺う。

岡部部長 ここに住んでいた方の道路は1202番地なのでここに豚舎ができたとしても、1205番地を使用してもらおうと考えている。1205番地も1207番地も川を渡るが1207番地のほうが橋の幅が狭いし除雪等が入れない。予算上の問題だがことはまだ建設途中なので完成すると車の台数がどれくらいになるのかわからないが、話を聞くとそれほどの交通量でもないと思うので、それほどの費用はかからないだろうと考えている。今年は全く手をつけることは考えていないが、除雪は建設途中なので行うように考えている。

窪之内委員外議員 1205番地から入って施設のほうに行くことになると思うが、今は細い砂利道で、でき上がった後というよりも建設する際に建設資材を積んだトラック等が入ってほこりがかなりたつのではないかと考えている。その点で自然にやるのではなく、施設を建ててから行うとしても、簡易舗装も施設をつくってからと考えてよいか。

岡部部長 我々の考え方としては、施設ができた後ということになると思うが、建設途中のほこり等については、やはり建設をするところで対策をとってもらうのが基本と思っている。

委員長 他に質疑はあるか。

副委員長 スワインステーションの本部が今のスワインステーションになるのかどちらになるかわからないが、同じ滝川で同じ資本の工場ができるということで、スワインステーションで今の状況が市場みたいに大きくなるというふうに考えてもよいのか。四、五年前にスワインステーションは廃棄物の不法処理で北海道の指導を受けてそっくり処理したということもあった。悪いと決めつけるわけではないが、山腰委員からも意見が出たように滝川市にとってさらなるプラスになることを経済建設常任委員会としても思っているという意味も含めて今のホクレンスワインステーションには行ったことがないので、視察をする必要があると思うが委員の皆さんにお伺いする。

多田課長 現在のスワインステーションのあり方について、7丁目にある施設は事前に視察を申し入れ許可になったが、説明にもあったとおりSPFと無菌状態にしているもので、飼育されている中については視察は一切まかりならないということである。ただ、堆肥の施設とか、尿処理の施設とかについては可能であるということなので、その部分については我々のほうで見せてもらったので、恐らく同様と考えるので申し添えておく。

委員長 視察をしてはどうかという意見が出たが、委員の皆さんに諮る。本日欠席者2名であるが視察についてどうか。制約はされるが、見た方はいないと思うので意見はあるか。

中 田 視察という部分では必要と思う。視察は実施したほうがよいと思うが、委員長と所管に任せる。

委員長 視察をすることでよいか。(よし)

時期については、正副委員長と事務局に一任でよいか。(よし) 後日連絡する。

委員長

2. その他について

皆さんから何かあるか。（なし）

委員長

3. 次回委員会の日程について

正副委員長に一任いただくことでよいか。（よし）

以上で第3回経済建設常任委員会を閉会する。

閉 会 11:00